

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第80号

2024(令和6)年9月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

繊維の種類と分類

— スフコンという言葉 —

「スフコン」という言葉を初めて知りました。繊維素材の一つです。「スフ」を混ぜた混紡繊維のことで、先日(2024年9月19日)、御年91歳になられる元織布工場の社長様からお聞きした言葉です。

かつて蚊帳(かや)生地を生産されていたその会社は天理駅に近い住宅地の中にありました。昭和7年生まれの氏が高校を卒業すると同時に創業された中西織布工場です。過日「昭和50年代後半にもまだ住宅地で機織り機の音が聞こえていた」という情報を得て調査を始め、知人の紹介からご近所の方のご協力をいただき、元社長の中西氏との面会、聞き取りが実現しました。

ところで、繊維素材は大きく二つに分類することができます。天然繊維と化学繊維です。天然繊維には植物繊維と動物繊維があり、植物繊維には種子系繊維の綿と、靱皮繊維の麻(亜麻、苧麻)があります。動物繊維には獣毛繊維として羊毛やアルパカなどがあり、繭繊維として蚕があります。蚕の生み出す繭の糸が生糸、絹(シルク)になります。一方、化学繊維には再生繊維、半合成繊維、合成繊維、無機繊維があり、再生繊維とは天然に存在するセルロースを取り出し、これを化学処理により一度溶解し、再び元のセルロースに作り直して繊維にしたものを指しています。セルロースの主原料としてコットンリンター(綿の種子の短毛)を用いているものがキュプラであり、木材パルプを用いているものがレーヨンです。

半合成繊維にはアセテート、合成繊維にはナイロン、ポリエステル、アクリル、ポリエチレン、ポリウレタンなどがあり、無機繊維にはガラス繊維、炭素繊維、金属繊維があります(上記の繊維の種類と分類については、おもに旭化成株式会社と BOKEN のWEB情報を参考にしています)。

混紡繊維の混紡とは「2種類以上の異なったステープル(短繊維)を混ぜ合わせて紡績することを言います。天然繊維同士、化学繊維と天然繊維との組み合わせなどさまざまなバリエーションがあるのですが、種類の違う繊維の長所を取り入れて、品質面や機能面などで優れた糸を作り出すのが目的です。」(JCFA日本化学繊維協会のWEBサイトより)。

冒頭に示したスフコンのスフとは、再生繊維のレーヨンの意で、スフコンとは再生繊維のレーヨンと天然繊維のコットンとの混紡ということになります。中西氏に蚊帳生地の素材についてお尋ねした際の答えが「スフコン」でした(当初はスズコンに聞こえましたが)。「スフとはレーヨンの短繊維(ステープル・ファイバー)の略で昔の名称です。…性質は、化学繊維の中で一番吸湿・放湿性が高いです。また、肌触りがよく、光沢があり美しく、静電気を起こしにくく熱に強いのも特徴です。環境に対して非常に優れており、焼却した場合でも有害物質の発生がほとんどありません。しかしながら、吸水性が優れている反面、シワになりやすく縮みやすく、水に濡れると強度が1/3に低下してしまうデメリットがあります。」(静岡県繊維資材工業組合のWEBサイトより)と記されています。

なお、蚊帳の生産はかつての大和の特産品であった奈良晒(麻織物)の系譜を引き継ぐもので、現在でも天理市内には蚊帳織りの技術を守りつづけている会社があります(丸山繊維産業株式会社、天理市長柄町)。調査にご協力くださいました中西様、関係者の皆様ありがとうございました。



今も残る中西織布工場の建物

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和6年8月26日～令和6年9月25日)

茨城県1、愛知県1、兵庫県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和6年8月26日～令和6年9月25日)

メールを含む各種相談件数5、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数2組6名



《綿の栽培記録 2024》－ 令和6年度版 その6 －

収穫の最盛期であるはずの9月下旬を迎えましたが、メインの10号畑ではほとんど収穫がありません。とくに和綿(赤木種)は蒴果がはじけても、干からびたような綿花が多く、いつものようにふっくらとしたコットンボールは現時点ではきわめて少数です。その傾向は洋綿アブランドも同じです。原因はどこにあるのか。分析についてはいましばらく様子を見てからにしたいと思います。

《奈良市月ヶ瀬の旧家の蔵に眠る木綿着、木綿布等を調査》 令和6年9月14日(土)

「まるで博物館の世界」というタイトルで本誌第54号(2021年6月)において紹介したお宅をあらためて訪問。蔵に眠る木綿布、糸、着物、機織り道具などを見せていただきました。中には大和絁と思われる木綿着、藍染めの糸のほか、麻糸や麻織り専用の杼(ひ)もあり奈良晒伝承館のある地元ならではのとも言えます。これらの貴重な文化遺産をぜひ来年のサミットにご参加くださる皆様にご覧いただければと思います。

写真は左から干からびた和綿のコットンボール、洋綿のブランチ、縞帳、木綿織用の杼と麻織り用の竹の小管



《旧「中西織布工場」(天理市田部町)を見学、調査》 令和6年9月19日(木)

旧「中西織布工場」の創業者中西様よりお話を聞かせていただくことができ、今も残る工場内をご案内いただきました。奈良市内で会社を営まれていたご親族から勧められ力織機8台から賃織りを始め、後に自動織機を導入。麻の蚊帳が高級品だったのに対し、綿糸やスフコンの導入により蚊帳が庶民の手に届くようになったことで、電気蚊取やエアコン等の普及するまで蚊帳生地はほんとはよく売れたそうです。

写真は左から工場内の様子、機草の板、倉庫に残る蚊帳生地、織機の巻き取りの芯。



【研修等の記録】

- ・ 令和6年09月07日 山の辺の道ファンクラブの代表竹田様はじめ4名来畑、懇談。全国コットンサミットを天理で開催するにあたり概要を説明。ご協力を依頼、ご快諾いただく。
- ・ 令和6年09月12日 天理高校(天理市杣之内町)の文化祭「天高祭」において理研部WS「棉から綿へ」を担当。Instagram「youki_schoollife_tenko」の「天高祭」参照。
- ・ 令和6年09月14日 奈良市月ヶ瀬の旧家の蔵に眠る木綿着、木綿布、機織り具等を調査。
- ・ 令和6年09月19日 旧「中西織布工場」(天理市)の元社長様宅を訪問、工場内をご案内いただく。
- ・ 令和6年09月22日 天理駅前コフン広場にて「てんだいフェスタ」に出店。ハーブを販売。